

谷川俊太郎 絵本★百貨展

11月24日(日)まで開催中

午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

月曜休館 ただし、11月4日(月・休)は開館、翌5日(火)休館

観覧料

■一般 1,300円(1,100円) ■大学生 1,000円(800円)

()内は前売および20名以上の団体

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料

●本展をご鑑賞の方は、常設展も無料でご覧いただけます

18歳以下
無料

現在開催中の「谷川俊太郎 絵本★百貨展」では、谷川俊太郎が手がけた数多くの絵本の中から約20作品を紹介しています。

谷川俊太郎の絵本には、「ものの見方」や「世界の感じ方」など子どもだけでなく大人にとっても改めて気づかされることが多くあります。

ことばそのものもつ音やリズム、ことばあそびの楽しさや日常の面白い発見だけでなく、戦争や死といった重いテーマと向き合う絵本も手がけています。

今回の展覧会のタイトル「百貨展」(デパートの百貨店にかけたもの)のとおり、谷川の手がけた絵本のテーマの幅広さ、奥深さには驚かされます。

『へいわとせんそう』は、見開きの左右のページに、「へいわの〇〇」、「せんそうの〇〇」と対比して絵が描かれているのですが、「あさ」のページは、海に朝日が昇る画面が両ページにまたがっています。これは、画家のNoritakeの発想だったそうです。谷川はNoritakeに自由に描いてほしかったそうで、谷川のこぼれから広がるイメージ、想いがシンプルな絵でわかりやすく表現されています。平和な日常が戦争で変わる、その中でも変わらないものがあることに気づかされ、ハッとさせられます。ことばも絵もシンプルなので、ストレートに伝わる絵本です。

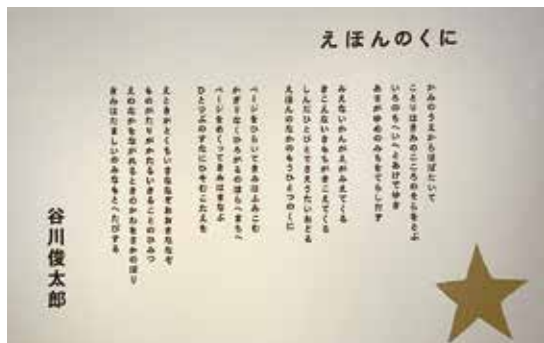
2022年に刊行された『ぼく』は、子どもの「自死」をテーマにした作品です。谷川は、編集者からの依頼を当初は断ったといいますが、2020年に制作ははじまり、絵を担当した合田里美や編集者と何度もやりとりをして完成したそうです。2年の歳月を費やした試行錯誤の制作過程の様子は、NHKのETV特集でも紹介され、反響を呼びました。

谷川は、この絵本の帯に次のように推薦文を書いています。「死を重々しく考えたくない。かと言って軽々しく考えたくもない。というのが私の立場です。死をめぐる哲学的な言葉、死をめぐる宗教的な言葉までが氾濫している現代日本の中で、死をめぐる文と絵による絵本はどんな形でなら成立するのか、この野心的な企画はそれ自体で、より深く死を見つめることで、より良く生きる道を探る試みです。」

戦争や死をテーマにした絵本は、いずれも何かのメッセージを押しつけるのではなく、読む私たちがそこから考え始めることができる絵本になっています。

今回の展覧会では、面白かったり、楽しかったり、悲しくなったり、こわいなったり、感情がいろいろと揺さぶられます。それほど多彩な谷川俊太郎の絵本の世界をぜひ体感してみてください。

(学芸員 松本久美子)



『ももこもこ』



『へいわとせんそう』



おならドーム(『おならうた』)



2階展示室



『ぼく』

◀ イベントやグッズの紹介は次のページへ

美術博物館ホームページはこちら



谷川俊太郎 絵本★百貨展

関連イベント

◆講演会「ひとりでいた時間」

11月16日(土)14:00～15:00 要事前申し込み

講師／市河紀子氏(編集者)

谷川俊太郎とも、周南市出身のまど・みちおとも一緒に仕事をされた編集者から見た、二人の詩人についてお話いただきます。

会場／周南市美術館 講座室 定員／50名(先着順)

申し込み方法／電話で美術館(0834-22-8880)までお申し込みください。

※聴講無料。ただし企画展観覧券(半券でも可)が必要です。

まどコーナーでの展示紹介

常設のまどコーナーではまどさんから谷川さんに送られたはがきを展示し、谷川さんとまどさんの交流を紹介しています。



谷川俊太郎 絵本★百貨展 展覧会書籍・グッズ

展示作品以外にも谷川さんの詩集や書籍、雑誌が70点以上集結♪今ここでしか見られない展覧会グッズも一望できます。



谷川俊太郎
絵本★百貨展
4,400円

谷川さんのこれまでの絵本について
分かる百科事典のような1冊
今は手に入らない「なおり」も収録



まるのおうさま 1,100円
赤ちゃんもじっくり見てしまう、なんとも魅力的な絵本



へいわとせんそう
1,320円

ここはうち
2,420円

ポストカード
(各330円)も人気



※表示価格はすべて税込です
※売り切れの際にはご了承ください



もこもこもこ 1,650円

展覧会で
谷川さんの朗読を聞いた後は、
うちで、もこもこもこ!



駅前図書館第7回「ほんわか日和」講演会



まど・みちおの
つたえたかったこと
「どうよう・いね」

「そうさん」「やぎさん ゆうびん」などの童謡や、周南市の図書館カードの絵でも身近なまど・みちおさんの魅力をお伝えします!

日時 11/9(土) 14:00～15:00

会場 徳山駅前図書館3階
交流室1

◆講師 周南市美術館館長 有田順一
◆定員 15名(先着順) ◆参加無料
◆当日、直接会場にお越しください

LAWSON

クリスマスケーキ・おせち

ご予約承り中

ローソン徳山動物園前店 0834-32-8363

※画像はイメージです。

美博クイズ〜!〈130〉 もんだい

周南市出身のまど・みちおさんがふるさとのために書いた詩はなんだろう?

周南市美術博物館 常設展示

展示室 4 林忠彦記念室

長州路

11/1(金)～2/28(金)

林忠彦が自身の故郷、長州(山口県)を一年がかりで撮影した「長州路」シリーズを展示します。

林は、『若き修羅たちの里—長州路』の写真集を企画し、まず萩の海岸に出ました。雪の舞う寒い薄暗い光景でしたが、丁度雲の切れ目から太陽の光が海に走ります。「このテーマは風雲急を告げているようなこの光景から始まる」と直感してシャッターを切りました。



萩湾<萩市> 撮影 林忠彦

展示室 5 まど・みちおコーナー

今回の内容の展示は12/28(土)まで

「谷川俊太郎 絵本★百貨展」に関連してまどさんが手がけた絵本を展示しています。

まどさんの「絵本とことばのあれこれ」という文章からは、まどさんが「ことば」をどのようにとらえていたのかがわかります。ぜひお読みください。



徳山の歴史 特設コーナー

「描かれた児玉源太郎」
12/28(土)まで展示中

司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』を実写化したスペシャルドラマが、NHKで放送されているのになみ、「描かれた児玉源太郎」と題して、児玉源太郎のブロンズ像や錦絵などを展示しています。



【第22回 周南市美術展2024】作品募集

美術展に出品してみませんか? 平面・立体・書・写真の作品を募集します!

事前申し込みが必要です。作品の搬入・搬出が日時指定となります。

●申込期間 11月1日(金)～12月27日(金)必着 事前申込

●開催要項の配布場所

市役所本庁舎、各総合支所、各市民センター、学び・交流プラザ、新南陽ふれあいセンター、文化会館、美術博物館等

周南市ホームページからもダウンロードできます

<https://www.city.shunan.lg.jp/uploaded/attachment/102688.pdf>

●応募方法 3つの方法があります※いずれも11月1日(金)受付開始

①ホームページから申し込み

周南市ホームページの「第22回周南市美術展2024」出品申込フォームに必要事項を入力して送信してください。※11月1日(金)以降にアクセスできます

②郵送またはFAXで申し込み

開催要項に付属の出品申込書及び応募部門のデータ票を記入し、郵送またはFAXでお送りください。

郵送先/〒745-8655 周南市岐山通1丁目1番地

周南市文化振興課文化振興担当宛

FAX/0834-22-8428(周南市文化振興課)



市ホームページ



出品申込フォーム

③持参する

開催要項に付属の出品申込書及び応募部門のデータ票を記入し、市役所の周南市文化振興課または周南市美術博物館に持参してください。

※開庁、開館時間内をお願いします。※その他の応募方法については、文化振興課へお電話でご相談ください。

●作品搬入 令和7年1月31日(金)・2月1日(土)

申込期間終了後、指定日時を文書で連絡します。

指定の日時に搬入してください。

●作品搬出 搬出についても日時を指定させていただきます。

●審査会 令和7年2月2日(日)に公開審査を行い、入選作品と各賞を決定します。見学申込の詳細については、第22回周南市美術展2024公開審査会の見学募集ページ(後日公開予定)に掲載します。

●会期 前期(平面・立体) 令和7年2月12日(水)～16日(日)
後期(書・写真) 令和7年2月19日(水)～23日(日・祝)

※月曜休館

●問合せ先 文化振興課(文化振興担当) TEL/0834-22-8622

※最新情報は、市と美術博物館のホームページでご確認ください。

※出品資格、応募企画、出品料等詳細は開催要項をご確認ください。

第33回林忠彦賞 作品募集

社会は心を撃つ写真をさがしています

■資格 国内居住であれば、アマチュア、プロ、年齢、性別、国籍を問いません。

■テーマ 自由

■対象 以下①、②の条件を満たすもの

①2024年1月1日～12月31日に写真展、写真集、雑誌、公募等の表現媒体ですでに発表された作品。

②受賞記念写真展を開催する関係上、同一テーマで35枚以上から70枚程度までの写真で構成された作品。

■選考委員 ●大石芳野 ●笠原美智子 ●河野和典 ●小林紀晴 ●有田順一 (敬称略)

<http://hayashi-award.com/>

応募先/問合せ先…林忠彦賞事務局(周南市美術博物館) 〒745-0006 周南市花島町10-16 TEL(0834)22-8880 FAX(0834)22-8886

2024年12月31日(火)必着!!

募集要項・歴代受賞作品などの詳細や最新情報はホームページをご覧ください。応募用紙のダウンロードもできます。



美博クイズ～!〈130〉こたえ

「コスモスのうた」だよ。

11月16日はまどさんのお誕生日だよ。11月は「まど・みちおコスモス音楽会」や講演会が開催されるので、ぜひ参加してね。

本を作りたいと思ったら

E-mail: m-nagase@try-angle.co.jp



株式会社 ふじたプリント社

〒745-0801 山口県周南市大字久米3918番地
TEL:0834-25-1600(代)
FAX:0834-25-1601



ART and HISTORY インフォメーション

周南

周南市美術博物館 ☎0834-22-8880

谷川俊太郎 絵本★百貨展
～11/24(日)

周南市郷土美術資料館 ☎0834-62-3119

空調工事等のため、
2025年1月10日まで休館

防府

毛利博物館 ☎0835-22-0001

特別展「国宝」
11/1(金)～12/2(月)

山口

山口県立美術館 ☎083-925-7788

超絶技巧、未来へ!明治工芸とそのDNA
～11/10(日)雪舟と雲谷派 仏のすがた人のすがた
～11/24(日)吉村芳生一日々、写しつづけてー
～12/25(水)坂井眞理子展 いのちの色、いのちのかたち
11/22(金)～1/26(日)

山口県立山口博物館 ☎083-922-0294

サイエンスやまぐち2024(第78回)
～11/10(日)

萩

萩博物館 ☎0838-25-6447

萩博物館開館20周年記念企画展
「幕末維新の萩-小川コレクションから-」
～12/8(日)

長門

香月泰男美術館 ☎0837-43-2500

没後50年香月泰男展
第三期1966→1974
～1/13(月・祝)

下関

下関市立美術館 ☎083-245-4131

第18回下関市芸術文化祭・美術展
～11/9(土)

下関市立歴史博物館 ☎083-241-1080

特別展「天下人との邂逅
—海峡の戦国史 第3章—」
～12/1(日)

～ TOSOH PARK 永源山の中にある美術館～

周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館

※空調工事等のため、2025年1月10日まで休館



当館はふるさと周南市の画家、尾崎正章の作品を中心に、地元の作家の作品を紹介する施設として、1995年に開館しました。空調工事等のためしばらく休館となりご迷惑をおかけしております。この機会に尾崎正章の歩んだ足跡を当コーナーで紹介します。

尾崎正章の作品

8.「白の世界について」

昭和40年代から50年代にかけては、白を基調とした作品が多くなり、「白い叙情」と評される尾崎独特の表現様式が確立します。「白は死んだ姉の好きな色で、若い時から好きでした。『白い椅子』とか手鏡を持った『M嬢』だとか、みな白を基調に、白の美しさを出すため苦心した。勿論安井先生¹⁾の影響もありましたね。*と尾崎は語っています。画面全体に白のフィルターがかかり叙情的な傾向が強くなるのは、大島商船の生徒をテーマに描きはじめた昭和47年頃からです。

「私にとって色は決定的なものではなく、その時々で変化する。*という彼の言葉通り、その後は再び色のある作品へと変化していきます。

「手鏡(くしけずるM嬢)」
1957(昭和32)年 油彩・キャンバス「商船高校一年生」
1972(昭和47)年 油彩・キャンバス「冬ざれ」
1975(昭和50)年 油彩・キャンバス

1) 安井曾太郎(1888-1955) 大正から昭和にかけて日本画壇を牽引した洋画家
*『尾崎正章展』図録 1990年(発行 新南陽市) P.7より

(花畠4～11月号まで連載した尾崎正章の紹介コーナーは、今回で一旦終わりとなります。機会がありましたらまた紹介させていただきます。ご愛読ありがとうございました。)

次回展覧会の
お知らせ

2025年1月11日(土)～3月2日(日)

企画展「遠藤春生作品展(仮)」

尾崎正章常設展「その軌跡をたどる(仮)」

最新の情報は、当館ホームページでご確認ください。 <http://s-bunka.jp/kyoubi/>

谷川さんの詩は、日常生活やこれまでの経験に絶妙に引っかかり、独特の世界観で好奇心や想像力が刺激されゾクゾクしてしまいます。今年の秋は、今まで味わったことのない詩の世界を美術博物館に体験しに来てみませんか。
(重田)

ミニコラム
ガス燈

「けんけんば」と書いてみると、これで良かったかなと思うくらい書き慣れない文字ですが、言葉で聞けば、馴染みのあるあの遊びがすぐに思い浮かびます。○が地面に並んでいるだけで自然とジャンプしたくなる人もいるでしょう。世の中の物事は様々な方法で表現されていて、認識の仕方もあるそれぞれで、それが難しくもあり面白いのだと思います。

そんな面白さが詰まった「谷川俊太郎 絵本★百貨展」が美術博物館で開催されています。谷川さんによって生み出された詩が、文字だけでなく、絵や映像、音や声、空間やにおい?などで表現され、谷川さんの魅力を全身で感じることでできる展覧会になっています。また、谷川さんの関連書籍を展覧会ならではのラインナップで多数そろえており一部は展示を楽しみながら読むこともできます。